

認知症に関する活動計画（概要）

兵庫県作業療法士会では、特設委員会として設立された認知症対策委員会を中心に関連する活動を展開している。2021年度の委員会の活動の中心は、地域で認知症の方やその支援者をサポートできる作業療法士の人材育成であった。認知症の人と家族の会との企画はコロナ感染拡大により無期順延となってしまった。2022年に関しては人材育成活動の他に、2021年度に延期になっていた認知症の人と家族会との企画を再開している。さらに地域包括ケアの視点を踏まえ、少しでも地域で認知症の方を支援られる仲間を育成することが重要と考え、県士会会員の地域での認知症関連の活動の実態に関する調査も実施予定である。

認知症の人と家族の会との連携事業

コロナの感染拡大前には認知症の人と家族の会との連携事業として、認知症の人と家族の会の総会に合わせた講演会への講師の派遣、運動会などのイベントを行っていたが、コロナウィルス感染拡大防止の観点から連携事業が止まっていた。しかし、今年度に入り、まずweb会議の形式で話し合いの機会を持つことから再開し、それぞれの現状の確認や認知症の人と家族の会から当会に対する要望の聴取を行った。話し合いの場を通じて、新たな企画として、現在、11月に向けてウォーキングイベントを共同で開催の予定である。このイベントでは、認知症の当事者の方やその支援者の方は勿論のこと当会の会員も気楽に参加できるように配慮し、これまで地域で認知症の方にかかわったことのない当会の会員の地域活動の経験につながればと考えている。



ステップアップ形式の人材育成事業（当士会独自の取り組み）

2020年度には難しかったweb形式の研修が2021年になりスムーズに運営ができるようになった結果、研修をしっかりと進めることができた。昨年度の研修内容の中の一つに、三重県作業療法士会から講師に迎え「施策につながる地域への取り組み」と題した講演を取り入れた。行政の立場からのご講演をいただき、他地域の士会活動の理解を深めた。他地域の士会との連携については、今後、さらに積極的に行っていきたい。また、これまで数年にわたって、人材育成事業を行ってきたが、実際にどれほどの作業療法士が、地域での活動に参加できているのか（直接支援に加えて、行政からの依頼に応じるなども含めて）今年度中に調査を行う予定である。



COVID-19の影響・対応など

徐々に活動を再開していたがコロナウィルス感染拡大の第7波により直接的な活動が難しくなっている部分もある。研修などはweb形式に慣れてきたため現在は以前に比べて大変スムーズになっている。ただ、認知症の人と家族の会との連携は、対面で活動を行うほうが効果的なこともあり、すべてを置き換えることは難しい。また、支援を受ける側も直接支援を期待されていることもあり、状況を見ながらできる限り感染対策をして対面での支援を模索して進めていくということが現状となっている。

